

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071201042		
法人名	有限会社 かけはし		
事業所名	グループホーム かけはし		
所在地	福岡市西区愛宕南2-13-23 〒 819-0007 (電話) 092-882-1000		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年1月29日	評価確定日	平成22年3月3日

【情報提供票より】(平成 22 年 1 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11 人	非常勤 6 人 常勤換算 13.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての～ 2～3階部分		
------	-----------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(90,000 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,300 円程度	

(4) 利用者の概要(1 月 12 日現在)

登録人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白十字病院、マリン病院、神田歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「様々な意味で弱者を支援することが福祉の根源である」という施設長の強い思いのもと、「自由に選択し、自由に生きる」を理念に掲げている。理念の実践に向けて、管理者も職員も一体となって、利用者が自分のペースでゆっくり過ごせるように支援が行われており、住みなれた地域での自由な暮らしに向けて取り組んでいる。利用者の中には、日課としてコンビニへの買物に出かける方や洗濯物干しから取り込みまで一人もくもくと行っている方、自室やリビングでくつろぐ方がおられるなど、普通の日常生活が展開されていた。予め献立を決めるのではなく、その時々のおいしい物や旬の食材を利用して調理を行うことでメニューへの期待感を高めたり、調理の際の音や匂いなどがもたらす重要な役割に着目している。今後とも、利用者の特性をふまえたケアが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、カンファレンス時に報告を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程において、利用者の生きがいとして、クラブ活動に取り組んだり、広報誌の作成に着手するなどの成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審にあたり、日々のミニカンファレンスにて職員の意見を聞き、まとめるなど、事業所の現状と今後の課題等の理解に努めている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	関係者を招いて2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況などについての報告の他に、地域高齢者の現状や地域行事等についての情報収集、高齢者の嚙下、ネグレクト、成年後見制度についての情報提供が行われるなど、意見交換が実施されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡などを通じて、利用者の日常の様子や状況の報告を行うとともに、家族の意見の表出に努めている。また、写真をふんだんに使った「たより」の送付を通じて利用者の暮らしぶりを家族に届けている。出された意見等については、カンファレンスや担当者会議にて協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	伝統行事の見学、公民館行事への参加、日課として近隣のコンビニエンスストアや商店の利用、利用者を通じての近隣住民や警察との連携など、自然な形で交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「自由に選択し、自由に生き る」を理念に掲げており、職員とともに日課と して買物に出かけるなど、住みなれた地域での 自由な暮らしに向けた取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット出入り口に掲示してあり、自然と目 に付く工夫がある。職員は理念の内容をよく理 解しており、具体的な取組み状況について詳細 に説明していただき、日々の業務の中での取組 みの様子が伺えた。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	伝統行事の見学、公民館行事への参加、日課 として近隣のコンビニエンスストアや商店の利 用、利用者を通じての近隣住民や警察との連携 など、自然な形での交流が行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果については、カンファレンス 時に報告を行うなど、質の向上への取組みが ある。今回の外部評価受審にあたり、日々のミ ニカンファレンスにて職員の意見を聞き、まと めるなど、職員がかかわった取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況などについての報告の他に、地域高齢者の現状や地域行事等についての情報収集、高齢者の嚥下、ネグレクト、成年後見制度についての情報提供が行われるなど、意見交換が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への保健福祉センター職員及び地域包括支援センター職員の参加が見られる。介護保険に関する質問を始めとして、日常的に相談、情報交換を行うなど、連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する研修等に参加し、参加後の報告会を通じて制度等について学ぶ取り組みがある。また、運営推進会議にて、保健福祉センター職員による制度等についての説明が行われている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡などを通じて、利用者の日常の様子や状況の報告が行われている。また、写真をふんだんに使った“たより”の送付を通じて、暮らしぶりを知らせている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡などを通じて、家族の意見や思いの表出に努めている。出された意見等については、カンファレンスや担当者会議にて協議するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の交流が頻繁に行われており、急な休み等についてもユニット間で補い合うなど、馴染みの関係が確立している。新しく職員が入職した場合は、利用者の見守りから入り、先輩職員が指導にあたるなど、利用者のダメージに配慮した取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、何らの制限は設けていない。人間性や優しさなどの適性を考慮しての採用である。料理を得意とする職員が他の職員に教えたり、フォローするなど、職員の得意分野で能力を発揮できるような取組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は、各種研修で行われる人権学習への参加や参加後の報告会を通じて制度等について学ぶ取組みがある。また、カンファレンスにて事例を挙げながら指導が行われるなど、人権啓発への取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を提示して外部研修への参加を募ったり、職員の経験やスキル等を考慮して指名するなど、外部研修への参加の機会がある。また、カンファレンス時の報告会にて伝達講習を行うなどの取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	「地域の福祉、医療関係者の集い」が最近開催され、この集い（連絡会）への参加を通じて、ケアマネジャーは情報交換、連携等に取り組んでいる。他事業所との職員レベルでの連携・交流などへの取組みは、今後の課題である。		職員レベルでの他の事業所との交流や情報交換等を通じて、職員一人ひとりのモチベーションが上がり、質の向上へと繋がります。このことを踏まえて、グループホーム協議会への加盟も視野に、同業他事業所との連携が図られるような取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居宅介護支援事業所や病院等からの情報を収集し、本人・家族から聞き取りを行い、得た情報を職員間で共有し、ケアに取り入れている。入居後は、利用者が安心して過ごせるようにかかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりを通じて、声かけの大切さ、気づかい、心配りなど、知識のみならず、利用者の感情を受け取ることから学ぶ姿勢が伺える。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて、利用者の思いや意向を把握し、把握した情報はアセスメントシート、介護日誌や総合ケア記録に記すなど、情報共有への取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡などを通じて、家族の意見を伺い、日常のかかわりを通じて、利用者の思いや希望を把握し、担当者会議にて協議を行い、介護計画書を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヵ月毎のモニタリング及び状況変化に応じ た見直しが行われている。モニタリング様式 を利用した記録の整理が一部不完全であり、ま た、全職員の気づきの集約と周知の徹底は、今 後の課題である。		状態等の変化の有無にかかわらず、チーム ケアの観点から、月に1度程度は、全ての職員 の気づきを取りまとめ、利用者の現状の把握 と周知への取組みを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	利用者の希望に応じての外出支援、日課とし ての買物支援、利用者のかかりつけ医への受診 対応など、その時々に応じて柔軟な対応が行わ れている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力病院があるも、利用者の今までの かかりつけ医への受診も可能である。今までの かかりつけ医への受診は基本的に家族対応であ るが、家族対応が難しい場合は、ホームで対応 するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針」を作成し、契約時に説明・同 意を得ている。契約時もしくは入居後早い段階 で、利用者の意向の確認が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	言葉かけやプライバシーへの配慮につい ては、職員一人ひとりが自覚を持って、丁寧 に対応している姿が見受けられた。各種記録類 は、決められた場所で適切に保管されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	事業所としての一応の流れはあるものの、食 事のペースや一日の過ごし方、外出のタイミン グなど、利用者のペースに合わせた支援が行わ れている。「自由に選択し、自由に生きる」と いう、理念の実践が行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員と利用者が一緒に片付け、茶碗洗い、茶 碗拭きを行うなど、利用者の出来ることを活か した支援が行われている。調理する際の匂いや 音などが五感へ働きかけ、食事時間が楽しみと なるような工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	週2回の入浴の設定であるが、利用者の希望 に応じて、毎日の入浴も可能である。一番風呂 への対応、個人用のシャンプー類の使用など、 利用者の希望に応じた支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	衣類の洗濯、洗濯物干しと取り込み、廊下の 掃除、毎日のコンビニエンスストアへの買物、 テーブル拭きや茶碗拭き、晩酌など、利用者 のしたいことへの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日課としてのコンビニエンスストアへの買 物、散歩、季節の花見やドライブ、伝統行事 の見学、公民館行事への参加など、外出の機 会を捉えての支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	1階のグループホーム用の出入り口は、電子 ロックがかかっているが、母体病院の受付を 通っての出入りは自由にできる。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、消防職員の指導のもと、避難訓練 の実施がある。運営推進会議時に、非常災害 時等の協力を得るための働きかけが行われ ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の希望をいかした食材や旬の食材を利 用して調理している。食事摂取量及び水分 摂取量の把握が必要な利用者に対しては、 記録を行っている。利用者の状況に応じて 小さく刻んだり、ほぐすなどの支援があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	4階建ての2~3階部分であるが、1階の玄関 ホールの下駄箱の上には、民芸品などが飾られ るなど、一般家庭の雰囲気を出している。 各ユニット内は季節を感じる飾りやソファ等 などが置かれ、自由に好きな場所でゆっく りと過ごしている利用者の姿が見受けられ た。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇、机、本棚、家具、カー テン、桐の筆筒など、馴染みの物や使い慣 れた物が持ち込まれており、ゆっくりと過 ごせる居室となっていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号